

サマースクール 2000 報告 (長岡技科大工) 赤羽正志

1 はじめに

日本液晶学会主催第3回サマースクールは、平成12年8月24日より3日間、新潟県妙高高原町池の平高原において開催されました。本年のサマースクールは、液晶について「基礎」から「応用」までを集中して勉強するだけではなく、特に、参加者と講師の先生方との世代と分野を越えた交流の場を提供することを目的として企画いたしました。本年は都会を離れ、妙高高原の山懐にてのんびりと自然を満喫しながら、膝を交えて懇談が出来るようなサマースクールを目指しました。講義については、大学卒業程度の知識をもってすれば理解できるような内容とし、質問時間・休憩を講義の中間に挿みながらじっくりと学んで戴くことができるようなプログラムと致しました。さらに、若手研究者が夢を膨らまし今後の研究活動の励みになるように、「研究開発秘話」を語って戴く講演や、液晶応用の裾野の広さを実感して戴けるような講演も用意し、ポスターセッションも充実いたしました。

参加者は講師も含め93名となり、大盛会のうちに終わることが出来ました。参加者からのアンケートや会後に寄せられましたメールからは、「参加してよかった」「交流ができてよかった」という声が多く寄せられました。概ね当初の目的を達成することが出来たかと存じます。



図 1: 全体写真

2 概況

1. 会期：2000 年 8 月 24 日 (木) ～ 8 月 26 日 (土) … 2泊3日
2. 会場：新潟県妙高高原町池の平 2452 ホテル・アルペンブリック
3. 参加者（当日は申込者全員が参加した。）

一般 JLCS 会員	一般非会員	学生会員	学生非会員	賛助会員参加者	講師・スタッフ
16	9	24	1	31	12

4. プログラム

講義 3 題 講演 4 題 ポスターセッション 液晶懇談会

講演講義タイトル	講師 (敬称略)	時間 (分)
講義:液晶の物理	竹添秀男 (東京工業大学)	110
講義:液晶の化学	楠本哲生 (大日本インキ化学工業)	110
講義:液晶の光学	(長岡技術科学大学) 小野浩司	110
講演:液晶産業の現状と将来	御手洗久巳 (野村総研)	50
講演:液晶のトライボロジー	中野 健 (横浜国立大学)	50
講演:熔融液晶繊維の応用	中川潤洋 (クラレ)	50
講演:日本の誇れる LCD 技術、開発秘話	松浦昌孝 (シャープ)	50

5. 実行委員

- ・ 委員長：赤羽正志 (長岡技術科学大学)
- ・ 小野浩司 (長岡技術科学大学)
- ・ 木村宗弘 (長岡技術科学大学)
- ・ 山口留美子 (秋田大学)
- ・ 田所利康 (日本分光 (株))

3 タイムテーブル

1日目 (8月24日)

13:00	～	:	受付開始	
14:00	～	14:10	開校式	赤羽正志 (長岡技術科学大学) 実行委員長
			講演講義タイトル	講師 (敬称略)
14:10	～	16:00	液晶の物理	竹添秀男 (東京工業大学)
16:10	～	17:00	液晶産業の現状と将来	御手洗久巳 (野村総研)
17:10	～	:	チェックイン	
18:30	～	20:30	バンケット	

2日目 (8月25日)

7:30	～	:	朝食	
9:00	～	10:50	液晶の化学	楠本哲生 (大日本インキ化学工業)
11:00	～	11:50	液晶のトライボロジー	中野 健 (横浜国立大学)
12:00	～	12:50	昼食	
13:00	～	16:00	液晶懇談会	
16:10	～	17:00	熔融液晶繊維の応用	中川潤洋 (クラレ)
18:30	～	20:00	夕食	
20:30	～	22:30	ポスターセッション	

3日目 (8月26日)

7:30	～	:	朝食	
9:00	～	10:50	液晶の光学	(長岡技術科学大学) 小野浩司
11:00	～	11:50	日本の誇れる LCD 技術、開発秘話	松浦昌孝 (シャープ)
11:50	～	12:00	閉校式	

4 会計

収入の部		支出の部	
科目	金額 (円)	科目	金額 (円)
参加費収入		会場費	1,799,910
一般会員及び賛助会員 (47 名 × 30,000 円)	1,410,000	要旨印刷製本費	23,310
一般非会員 (9 名 × 40,000 円)	360,000	通信費	8,000
学生会員 (24 名 × 20,000 円)	480,000	写真代	13,149
学生非会員 (1 名 × 25,000 円)	25,000	講師謝礼費	85,000
参加費はいずれも宿泊費 (2 泊 4 食)		講師交通費	89,000
講義要旨集等を含む。		バイト費	100,000
		雑費	19,869
収入合計	2,275,000	支出合計	2,138,238
		収支差額	+136,762

5 今年のサマースクールの特徴

- 開催地を妙高・池の平高原とした
 - ・避暑地として北信越では有数の景勝地
 - ・参加者からも好評だった（アンケートより）
 - ・北陸・中京からの参加者もあった
 - ・東京からの参加者にとっては長野での乗換えが必要
- ILCC2000 のため、会期を 8 月下旬とした (例年 8 月上旬)
 - ・応用物理学会の会期と近くなってしまうざるを得なかった。
- 他団体に共催依頼を行わなかった
- WWW によるオンライン受付 (web にアクセスできない人からは FAX, e-mail にて受付)
 - ・受付事務の自動化により事務作業が軽減
 - ・申し込みの 7 割がオンラインから受付
 - ・参加者からも好評だった（アンケートから）
- 参加費を例年より安くした
 - ・学生の参加者割合が増加
 - ・非会員参加者からは、会員との差額が大きいと不満があった ⇒
 - ・当初の狙いどおり、当日に液晶学会に入会した参加者が 10 人いた
 - ・参加費の適切なバランスをとった設定は重要。今年については、会員と非会員の参加費の差が殊に大きく映ってしまった。
 - ・概して、参加費の安さは決してメリットとはならなかった（後述）

6. 本年もメーリングリストによる参加者への情報提供を行った
 - ・参加者からも好評だった（アンケートから）。
7. 講演プログラムは、特に講義を重視し、中間に質問時間を取りつつ 110 分とした。
 - ・参加者がじっくり学ぶことが出来るよう配慮。

6 今年のサマースクールの良かった点 ～参加者の声から

今年のサマースクールについて、参加者の声やアンケートの集計結果から、良かったと思われる点をまとめてみた。なお、アンケートについては、以下の URL に立体的にまとめましたのでご覧下さい。

<http://www.alcclan.nagaokaut.ac.jp/ss2k/index-j.html>

なお、アンケートより「来年も参加したい」と答えた人が回答の 8 割以上、「知人にもサマースクール参加を勧めたい」という回答は 9 割を超えていた。

1. メーリングリストによる事前情報案内

- ・これについては、情報の提供よりむしろ事前のフランクな雰囲気作りに活用したが、概ね好評であり、サマースクール当日も非常に盛会となった。

2. ポスターセッション

- ・例年ポスターセッションは非常に好評であった。完結した研究の発表の場としてだけでなく、中間発表的なものを募集したことから肩の力を抜いて発表を行うことが出来、当日の議論も更に活発となり、非常に好評だった。

3. 各種懇親企画

- ・ホテルの協力によって、バンケットはビール飲み放題の立食形式としたが、好評だった（会場の都合、参加者は早々と長椅子に座ってしまったが）。また、宿泊における部屋割りも工夫し、同一団体からの参加者を一つの部屋にまとめず、別々の部屋にし、一部屋平均 4 人の相部屋としたが、これによって懇談が非常に盛り上がった（尚、一つに部屋には、例えば液晶材料メーカー等の特定業種の人が集まらないようにも工夫したがこれも好評だった）。

4. 講義も含め、こうした企画は、現存する「セミナー会社」には真似をすることが出来ないものであり、学会ならではの企画である。

7 今年のサマースクールの反省点

1. 参加費

- ・参加費を下げることで多くの 個人参加者 (自費で参加する人) を募ろうとしたことは一応の成果があった。

- ・ しかしながら、講演会場の椅子・食事をはじめとして環境面で参加者からの不満があったのも事実である。
 - ・ アンケートより、一般参加者については9割以上が所属の団体から参加費を出してもらっているということが明らかとなった。このため、参加者としては参加費を下げることはサマースクールの内容の充実を要求していたということが明らかとなった。
2. 予稿集の事前送付が出来なかった（お盆直前に来た原稿があった）
 3. 参加費納金は、事前に銀行振込にするよう統一すべきだった
 4. サマースクールへの賛助会員枠はメリットがあるのだろうか？
 - ・ サマースクールを契機として液晶学会に入会させる方を募ることが出来るため、賛助会員枠があまり大きくない方がよいのではないか？（会員規約にも関連）
 5. 液晶懇談会については、実行委員のほうでもっとしっかりとした企画を組むべきとの声があった。
 6. 全員が自己紹介できるような場をやはり設定すべきだった（何らかの全員参加企画）

8 来年への要望(引継ぎ事項)

1. サマースクールの運営形態について
 - ・ サマースクールの運営は、幹事校にすべて任せるのではなく、液晶学会理事の下に運営ワーキンググループをしっかりと組織した方がよい。
2. 「液晶研究への入門としてのサマースクール」という位置付けを明確にすべきではないか。
3. 講師と参加者の距離を縮め、活発なポスターセッションを企画して欲しい。アンケートからも、サマースクールにしかないフランクな空気を大事にして欲しいという声が多数寄せられている。
4. なお、平成13年のSSは、千歳科学技術大学および支笏湖畔の宿泊施設にて開催されることが9/30の理事会で承認されました。